

南の星々

倫敦にて 廣瀬満敏

印度洋上、靜に眠る夜半、唯一人 Deck に立ちて肅々こ展開さるゝ未知の星々を友として、彼等と語らひつゝ夜を明した事も幾度か、唯聽ゆるは船ふなはたを洗ふ波のさゝやきこ、Engine の響きのみ。

はてしも無き波の上に明晃々四個の星が光つてゐる。二個は縦に、二個は横に、そしてこれらの星々は見事な十字を畫いてゐる。これぞ、「今夜は見えるか」、「明夜は見えるか」と、毎夜あこがれてゐた星座、「南十字」である。

ダンテの神曲にうたはれた詩的な南十字、キリストがこゝろこた髑髏原に磔刑に處せられた夜、地平線近く輝いたと云はれるロマンチックな「南十字」。今其の星々をまのあたり見る事が出来た。縦軸の上端即十字の頭にある橙色の星が γ (光度1.6) 星、其反對にあつて十字の中最も明るい光を放てる白色星は α (光度1.05) 星だ。横軸の左端が β (光度1.5) で右端が δ である。 α 、 δ の兩星を結びこれを南へ30度延長せば南極に達す可聞。更に双眼鏡にて β 星を覗けば λ 、 ν 、 ϵ (三星共分等星) の四星が愛らしい菱形を作つて居る。

目を左方に轉すれば、 α 、 β の Centauri、爛々たる光輝を放つて居る。右方なるが β (光度0.86) 星にて他が α (光度0.13) 星である。兩星間の角距離は約五度、 α 星は Sirius、Canopus 兩星に次ぐ明星にて、其ルビーの如き赤色の光りは、 β 星と共に雙珠の如く、あたりを壓してゐる。 β Centauri と γ Crucis を底邊として、其中間を北方に、三角形の頂點を求むれば、白雲の斷片の如きものを認むる。これピケリング教授が「天界中最も美しき星團なり」と激賞せる、 ω Centauri 球狀星團である。されば望遠鏡無き故其美觀を觀望する事を得ざるは遺憾であつた。

兩 Centauri に對し、Southern cross の反對の側を望めば、美しき二等邊三角形を見む。Triangulum Australe (南三角) の三角形である。頂點の赤き星は、 α (光度1.88) にて底邊の兩星が夫々 β (光度3.0) γ なり。この兩星と、 α 、 β Centauri の中間に Circinus (兩規器) の β 、 γ 、 δ の諸星が薄い

小三角形を畫いて居るのが、ほのかに望見される。

仰いで中天を望めば、なつかしの Orion 座の諸星は西にかたむき、Sirius 星これにつゞき、唯獨り Canopus 星のみ、冴えたる青色の光を輝やかしてゐる。やがて時移れば、蝸座が例の怪奇な姿を東天に現して來る。かくて、天上に於ける最も美しき花形等は、黙々として夜の大舞臺に登場して來るのである。

重要な星々の要素を下記に畧記する。

α Crucis 二重星、伴星の光度 2.1 角距離 5.0, 方向角 113度 視線速度 +19キロ 固有運動 0.047秒。

β Crucis 白色星、視線速度 +18キロ、固有運動 0.059, 距離 300 光年

α Centauri 1925 年 5 月インネスに依り實視連星である事が發見された。伴星の光度 1.7, 角距離 10.4 秒, 周期 79.77 年 長軸 17.65 離心率 0.512. 又本星 1831 年より翌 2 年にわたり、南阿希望峯のトーマス、ヘンダーソンにより其視差を 0 秒.759 測定せられた。即ち 4.31 光年にて、地球に最も近き一等星として、又最も早く(最初は白鳥座 61 番星なり) 其距離を求められたる事に依り有名である。視線速度 22.2 キロ、固有運動は比較的大で 36.8 秒。

β Centauri 赤色星、視線速度 +12キロ 固有運動 0.041 距離 82 光年。

ω Centauri (球状星團) ハーバード天文臺長シャプレイ教授は距離 21,000 光年を測定した。最も近き球状星團である。視直径は 30 秒、實直径は 200 光年、大望遠鏡にて之を望めば、約千個の 13 等星乃至 14 等星がダイヤモンドの如く輝きつゞ、密集せる由、實に球状星團の好標本である。

(旅行の爲参考書も少なく、正確を期し難く誤謬あらば御教示を乞ふ)

ミラー教授 今般スワースモア大學教授職を退き、専ら天文台長として研究にのみ没頭せられる由。

ステツリン教授 今般ハーバード大學天文學教室主任を辭し、パーキンス天文台長に榮轉。(天界第 93 號第 60 頁參照)